





























海にわたる舟の音 舟 ながるる舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟の音 舟 舟の音 舟 舟の音 舟

舟

舟



書きたし海ふかりまゝにる養をん

母の物にまをさすにまの

えつらよあふ 申の事いあ

とくか入の漢族とあひ 難波の

がくま じつやあふの浦が

ゆきまか さいまかえをまらぬ

只世とさるるにあらまはるるに命つん

そくあよあましひてい市にあらあ

はよあまそくあましあおあそく

てあまれよあまかろ難波のあとり

あまらるるにまをさすにあまらるる

あまらるるにまをさすにあまらるる

書



















とせしむるはひきまの行のいさよを

あふ<sup>早</sup>美花はをいへるはゆめ

うささるふく<sup>世</sup>はに古人のくも

色<sup>世</sup>あまのしゆまのまよひの結ん

のひまの今<sup>世</sup>はあまのまよひの

つま<sup>世</sup>あまのまよひのまよひの

く<sup>世</sup>がまよひのまよひのまよひ

ま<sup>世</sup>及現かまよひのまよひの

あ<sup>世</sup>まよひのまよひのまよひの

し<sup>世</sup>まよひのまよひのまよひの

ま<sup>世</sup>一難の人かまよひのまよひ

ま<sup>世</sup>あまのまよひのまよひの







あゝいづれは月が夜をりて

よき葉に抄ふあしき葉をいひ

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし

あしき葉をいひあしき海にさし















くまのきりぎりすのうたをよめ

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

まのうたをよめしむるは

五ノ

五ノ

五ノ

五ノ



時

のいさよの人よふらふらふら <sup>早</sup> 花

花れいひつらふれははらふらふら

らふらふらふらふらふらふらふら

<sup>レテ</sup> へらふらふらふらふらふらふら

はん年ほひのほふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら <sup>早</sup> 花

ふらふらふらふらふらふら <sup>早</sup> 花

ふらふらふらふらふらふら <sup>早</sup> 花

ふらふらふらふらふらふら <sup>早</sup> 花

ふらふらふらふらふらふら <sup>早</sup> 花

早

早



おりのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ

てのまくらに柳をくまわ







かみいびくしりのよきさきかき

しあひつご角あいかひし

まよひびりあひつご角あいかひし

人のあひつご角あいかひし

かみいびくしりのよきさきかき

しあひつご角あいかひし

まよひびりあひつご角あいかひし

人のあひつご角あいかひし

かみいびくしりのよきさきかき

しあひつご角あいかひし

まよひびりあひつご角あいかひし

人のあひつご角あいかひし

かみ

あ

か



ぬくらの木の柳れ我よししとくも

上奇

ひまひるむしのすくよくひ法

よあぐらうやれぬあうらそあま

まよのうらまのめあまのあま

しんくたあまのくあんと

らんとあまのあまのあま

くまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあま























しんさだときりし柳らばはのこれあ  
まらぬ一軒のらまらもたあやれえ  
あつと人のほほふくはれ風うら  
しひあそこのしとつらくぶ露  
すまのしとららくふならしそ  
のころららまはなかりまらり

浮船 曲出 権座  
位 延 傳 居

甲角

是ハ法國一見人の情をてん我ハ  
かしくまのらひひりて見しあり

初よのほくまやあもひひ

まのらひひくまをまをなま

まやしくまをまをまを三痛乃

御歌











4  
... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

... ..  
...

...

...







Handwritten musical notation on a manuscript page, consisting of approximately 12 staves. The notation is written in black ink on aged, yellowish paper. Each staff begins with a clef and contains a series of notes and rests, connected by a continuous line. The notes are mostly eighth and sixteenth notes, with some longer note values. The manuscript includes several red markings: a red '1' at the beginning of the first staff, a red '2' at the beginning of the second staff, and a red '4' at the beginning of the fourth staff. There are also red dots and lines interspersed throughout the notation, likely indicating specific rhythmic values or performance instructions. The handwriting is fluid and characteristic of early modern manuscript notation.

Handwritten text in the left margin, possibly a page number or a section marker.

Handwritten text in the left margin, possibly a page number or a section marker.







何やんらたひらもあらは梅の

くは流るるもよき <sup>#</sup>あはれわ

しあひえの秋のちる <sup>上</sup>あはれ

川のあはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ

あはれ <sup>上</sup>あはれ <sup>中</sup>あはれ <sup>下</sup>あはれ



この書は、  
神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

神の御心  
を記すに  
あつた

第 七 十 一 号



若

小樽の夕べのつとむ 下 せいふく船

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ひら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ひら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ひら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ひら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ひら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら

ふらふら 上 せう 下 ちか 上 ひら 下 さら











1521 1572

三

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに



















引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時

引へ本よわかれ 上 時 上 時 上 時



にの備のくまや<sup>三</sup>属<sup>四</sup>御<sup>五</sup>

いかりをそ名とほあ<sup>上</sup>のり<sup>九</sup>入<sup>一〇</sup>

し<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>く<sup>三</sup>名<sup>四</sup>と<sup>五</sup>あ<sup>六</sup>の<sup>七</sup>り<sup>八</sup>入<sup>九</sup>し<sup>一〇</sup>は<sup>一一</sup>生<sup>一二</sup>神<sup>一三</sup>の

らん<sup>一</sup>ど<sup>二</sup>の<sup>三</sup>ま<sup>四</sup>の<sup>五</sup>ひ<sup>六</sup>と<sup>七</sup>あ<sup>八</sup>く<sup>九</sup>が<sup>一〇</sup>所<sup>一一</sup>

う<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>三</sup>ら<sup>四</sup>ん<sup>五</sup>と<sup>六</sup>ま<sup>七</sup>し<sup>八</sup>の<sup>九</sup>ま<sup>一〇</sup>あ<sup>一一</sup>は<sup>一二</sup>あり

疾<sup>一</sup>し<sup>二</sup>の<sup>三</sup>ま<sup>四</sup>の<sup>五</sup>ひ<sup>六</sup>と<sup>七</sup>あ<sup>八</sup>く<sup>九</sup>が<sup>一〇</sup>所<sup>一一</sup>

く<sup>一</sup>た<sup>二</sup>ら<sup>三</sup>く<sup>四</sup>ま<sup>五</sup>ら<sup>六</sup>の<sup>七</sup>ま<sup>八</sup>あ<sup>九</sup>は<sup>一〇</sup>は<sup>一一</sup>の<sup>一二</sup>ま<sup>一三</sup>あ

し<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>く<sup>三</sup>名<sup>四</sup>と<sup>五</sup>あ<sup>六</sup>の<sup>七</sup>り<sup>八</sup>入<sup>九</sup>し<sup>一〇</sup>は<sup>一一</sup>生<sup>一二</sup>神<sup>一三</sup>の

ら<sup>一</sup>ん<sup>二</sup>ど<sup>三</sup>の<sup>四</sup>ま<sup>五</sup>の<sup>六</sup>ひ<sup>七</sup>と<sup>八</sup>あ<sup>九</sup>く<sup>一〇</sup>が<sup>一一</sup>所<sup>一二</sup>

わ<sup>一</sup>の<sup>二</sup>ひ<sup>三</sup>と<sup>四</sup>あ<sup>五</sup>ま<sup>六</sup>ら<sup>七</sup>の<sup>八</sup>ま<sup>九</sup>あ<sup>一〇</sup>は<sup>一一</sup>の<sup>一二</sup>ま<sup>一三</sup>あ

あ<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>ら<sup>三</sup>の<sup>四</sup>ま<sup>五</sup>あ<sup>六</sup>は<sup>七</sup>の<sup>八</sup>ま<sup>九</sup>あ<sup>一〇</sup>は<sup>一一</sup>の<sup>一二</sup>ま<sup>一三</sup>あ

ん<sup>一</sup>ど<sup>二</sup>の<sup>三</sup>ま<sup>四</sup>あ<sup>五</sup>は<sup>六</sup>の<sup>七</sup>ま<sup>八</sup>あ<sup>九</sup>は<sup>一〇</sup>の<sup>一一</sup>ま<sup>一二</sup>あ<sup>一三</sup>



























Handwritten text in red ink at the top of the left page, likely bleed-through from the reverse side.

わが身をたもたせしめ  
ておぼえしむるは  
まはるるを  
かたじけなく  
おもはせしむるは  
まはるるを

かたじけなく  
おもはせしむるは  
まはるるを

まはるるを  
かたじけなく  
おもはせしむるは

おもはせしむるは  
まはるるを  
かたじけなく

かたじけなく  
おもはせしむるは  
まはるるを

おもはせしむるは  
まはるるを  
かたじけなく

かたじけなく  
おもはせしむるは  
まはるるを

おもはせしむるは  
まはるるを  
かたじけなく

かたじけなく  
おもはせしむるは  
まはるるを

おもはせしむるは  
まはるるを  
かたじけなく











早  
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、











あつはつ入早いふふふふふふふふふ

東人の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ

あつはつ入早いふふふふふふふふふ

あつはつ入の神女性力の身として思はれしは神や童ハ







海のなるを  
上陸 舟のなるを  
さら 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを

ながるるを  
上陸 舟のなるを











